

一流は一流を 知る

「本気で理想を追い求めようとするれば、必ず社会と衝突する。それでも挑戦し続けるのが建築家という生き方だ」と話す安藤忠雄氏。世界中を飛び回り、独創的なコンクリートの建築で社会に挑み、芸術文化を育ててきた彼がいま、秋田の文化力を問う。

日本は「生きる力」を失った

日本人は退化している。世界から見たら日本は原点を失った国。顔がない日本、個性のない人間。自分たちの美意識を失い、経済大国という肩書きだけが一人歩きした日本にもはや原点などなくなってしまう。原点とは「生きる力」のことである。明治の日本と日本人の心を世界で紹介した作家ラファティオ・ハーン(小泉八雲)は、こんなことを語っている。「日本は世界のなかでも珍しい国。それぞれの地域に個性があり、それぞれに個性豊かな文化が息づいている」。昔は三百諸藩がそれぞれに文化を持っていた。松江(島根県)を訪れたラファティオ・ハーンは美しい風景や日本人の生活感に出会い、その風情や情緒を心に刻んだ。それが日本文化を世



界を紹介する礎にもなった。かつては地域ごとに美しい風景があり、土地それぞれに文化があったのだ。

私が拠点としている大阪にも進歩的な風土があった。鎖国時に長崎の出島で貿易が許されていたオランダ人が江戸に向かう中継地として訪れてい

たことから、大阪の人はどん欲に異国の文化や知識を吸収した。緒方洪庵の開塾した適塾もまた、世界を目指して激動の時代に華を開かせた。

明治以降の歴史のうねりのなかで、それぞれの土地が持つ文化と人の力は大きかったと思う。

21_21 デザインサイト photo by 松岡 清男

秋田に文化はあるか、「生きる力」はあるのか。

経済は文化のしもべ

20年ほど前、ベネッセコーポレーションの福武総一郎社長(現会長)から「世界一の文化施設をつくりたい」と依頼があった。舞台は瀬戸内海に浮かぶ直島という離島。直島は戦後の発展のなかで破壊され、自然の荒廃が目立ち過疎化も進んでいた。福武さんはお世辞にも魅力的とは言えないこの島に「自然を取り戻して新しい芸術文化を育てる」という構想を描いた。

自然と芸術を一体化させ、過疎の島を文化の島として再生するこのプロジェクトはいまやさまざまな展開を見せている。(ベネッセハウス・ミュージアム)や(地中美術館)での現代アートや、直島のなかでも古い集落である本村地区の民家を保存する「家プロジェクト」。こういった一連のプロジェクトが功を奏し、人口約3,500人の島に国内外から年間30万人が訪れるアートの聖地となった。直島に来れば「生きる力」や「創造力」が刺激される。これから何かをやろうという人間にはとっては面白い島になったと思う。

「経済とは文化のしもべである」福武さんはそう言い続けてきた。文化は生きる力を生み、活力をつくり、地域を活性化させる。一流の人間もそこから生まれてくるのだと思う。

「心の拠り所」となる建築

世界を旅していた若いころ、フランスでル・コルビュジエのロンシャン礼拝堂を訪れ、心を動かされた。建築自体に感動したのではない。建築家の構想力が生んだ空間で人々が祈る表情を見て感動したのだ。その顔は生きる喜びにあふれていた。



光の教会 photo by 松岡 清男

このときから私は、人々が集まり、心の拠り所となる建築をつくることを考え続けてきた。機会を得て実現した(光の教会)もそういった思想から生まれた。それは単純な機能を越えた精神性の表現。訪れた人々の「生きる力」や「創造する力」となる建築である。

私たちが生きる現実という世界は虚構であり、精神的な世界でもある。自然とアートが一体化した直島で、ジームス・タレルや草間彌生の作品が構築した精神世界に触れたときのように、感動する力が好奇心を呼び、新しい世界へと広がっていく。「文化」とは、そういうものではないか。

「生きる力」はあるか

そこで、秋田はどうだろう。新県立美術館の核となるエコール・ド・パリの画家・藤田嗣治は、日本人としての自分の感性がどこまで通用するかフランスで闘った人物だ。誰も支えてくれる人のいない世界で、毎日が緊張の連続だったはずだ。そんななか、日本画の技法を取り入れた藤田の油絵は頭角を現していく。代表作「カフェにて」などに見るように、藤田が編み出した乳白色



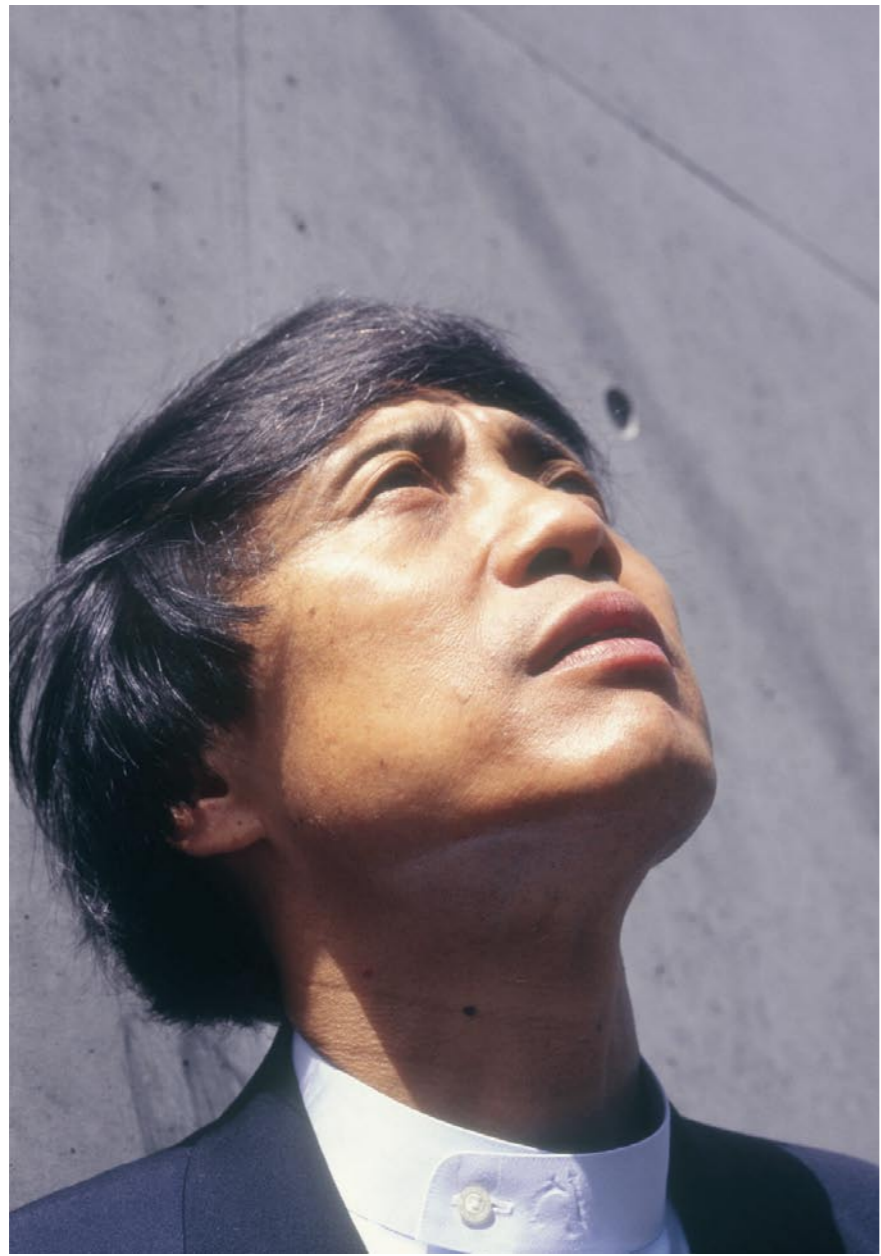
憧れた。日本人の美意識がパリの芸術家たちに絶賛されたのだ。それは鎖国以来、築き上げてきた日本の文化力。当時、日本は文化国家として世界に「尊敬される」国であったはずだ。



地中美術館 photo by 松岡 清男

しかし戦後、日本は違った表情を帯びていく。日本の社会から独自の美意識は失われ、経済大国・日本という国が一人歩きしていった。日本人は、受け継がれてきた「美意識」と「心」を置き去りにしてしまったのだ。

日本がかつての文化力を取り戻さなければならない。藤田嗣治という画家と、藤田に世界一巨大な絵を描かせた平野政吉の存在を改めて考えてみてほしい。新しい美術館をつつたからといって、それだけでは秋田は何も変わらない。もつと本気で目を見開き、日本は、そして秋田は、尊敬される文化とともに「生きる力」を築いていかなければならないだろう。



建築家
安藤 忠雄
(あんどう ただお)

1941年大阪生まれ。プロボクサーを経て世界各国を旅した後、独学で建築を学び、69年に安藤忠雄建築研究所を設立。コンクリートの住宅や教会など独創的な建築が評価され、アルヴァ・アアルト賞、仏建築アカデミーや王立英国建築家協会、米建築家協会などのゴールドメダル賞、仏文学芸術勲章などを受賞。イェール大、コロンビア大、ハーバード大の客員教授を務め、97年東京大学教授。2003年から名誉教授に。作品に「住吉の長屋」(六甲の集合住宅)「光の教会」(淡路夢舞台)「フォートワース現代美術館」(地中美術館)など多数。現在、新秋田県立美術館の設計に携わる。

〈お中元推奨品〉

自然の恵み、伝統の技、人の手で作る本物の旨さ。

全国各地への発送も承っております
お申し込みはフリーダイヤル(料金無料)をご利用ください

インターネットからもご購入いただけます <http://www.kanbun.co.jp>

0120-1728-19

■通話料無料 ■承り時間/9時~17時(日曜・祝日を除く)

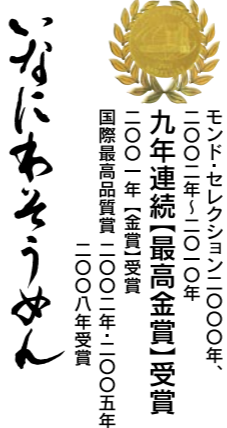
FAX0120-1728-46

■通話料無料 ■24時間受付

- お届け先1カ所につき商品合計額が5,250円(税込)以上は、送料無料で、5,250円(税込)未満の場合は420円(税込)となります。
- お支払いは、郵便局・コンビニ・代引(手数料315円(税込))・クレジットカードでお支払いします。(21,000円以上お買上げの場合は、代引またはクレジットカードで)
- 商品のお届けはご注文受付後、通常7日前後です。着日指定も承ります。
- ご不明な点は、上記フリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください。
- 沖縄県、鹿児島へのお届けの場合は、鹿児島送料金630円(税込)を、別途加算させていただきます。



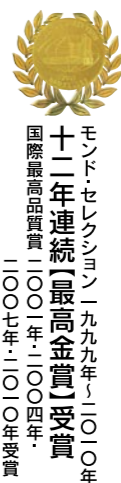
▲いなにわそうめん・寒造り/木箱 NKS30(そうめん40g×20束入)
3,150円



▲いなにわ手鞠うどん/木箱 WK10(うどん200g×5袋)
3,885円



▲いなにわ手鞠うどん/木箱 WK10(うどん200g×5袋)
3,885円



モンド・セレクション 2010 最高金賞「ゴールドメダル」

非効率主義
寛文五年堂

秋田県湯沢市稲庭町字三嶋34 TEL0183 (43) 2114・FAX0183 (43) 2855 URL <http://www.kanbun.co.jp/> ご注文専用 ☎0120-1728-19 受付時間 9:00~17:00 (月~金)

■秋田市・秋田西武、秋田サティ、ジャスコ各店、藤木、秋田県産品プラザ(アトリオン地下1階)、秋田市民市場 加藤本店、石川酒店(トピコ2階) ■大館市・いとく大館ショッピングセンター、他各店 ■鹿角市・関小市商店 ■大仙市・タカヤナギ各店、大阪屋、停車場こまち ■横手市・横手サティ ■由利本荘市・イオンスーパーセンター各店 ■にかほ市・泉屋商店 ■仙北市角館町・角館こだわり蔵 ■湯沢市・小川忠太郎商店、カドヤ ■東京銀座店/東京都中央区銀座七丁目6-5(石井紀州屋ビル1階) ■秋田キャッスルホテル/秋田市中通一丁目3-5(秋田キャッスルホテル2階)